

Choho

長崎大学広報誌
[チョーホー]

被爆
70年と
長崎大学
特集



Choho

長崎大学広報誌「チョーホー」 Vol.54 2016年1月1日発行 長崎大学ホームページ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

学びの
森の風景

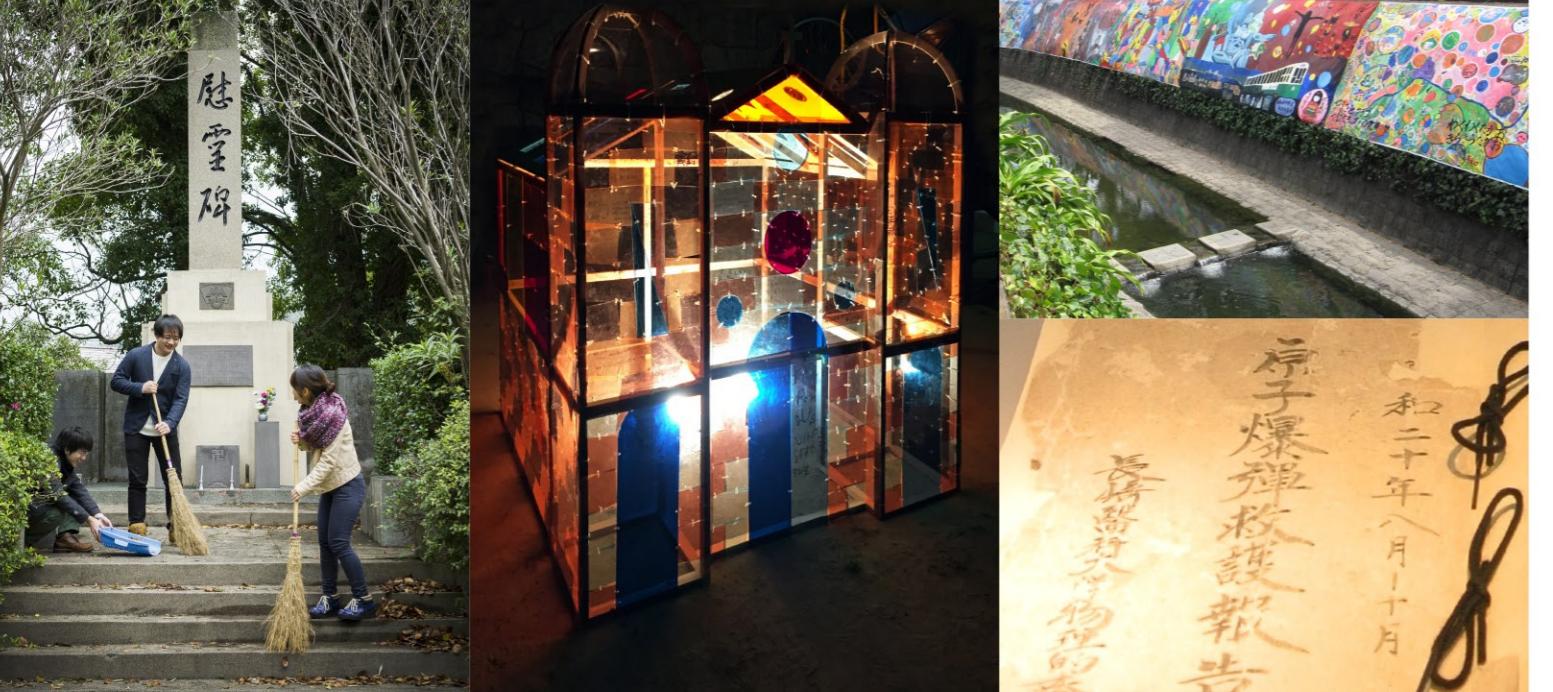
Scene 16



片淵キャンパスの正門から講義棟へと続く石畳に並ぶ背の低いクロマツは、枝ぶりもりっぽで品格があります。緑の木々を背景に鎮座する猫も、心なしか風格が。長大の3つのキャンパスはそれぞれ「大学猫」とも言うべき猫がたくさんおり、世代交代をしながらお気に入りのエリアで暮らしています。猫好きの学生の格好の被写体でもあります。

撮影／沖田夏樹(経済学部 職員)

被爆地のアカデミアの役割



特集 被爆70年と 長崎大学

2015年、長崎は被爆70年を迎ました。

被爆地にある国立大学として、

長崎大学はこの70年どのような役割を果たし、
今何を行い、今後どんな未来を目指しているのでしょうか。
大学としての取り組みや、学生のさまざまな動きを通して、
ご紹介していきます。

写真左上／被爆当時、多くの人々が亡くなったグビロケ丘も、坂本キャンパスの一画にあります。その後建てられた原爆慰靈碑は、学生たちによって清掃や植栽が続けられています。長崎大学被爆70年企画 学生実行委員会のメンバーは「この機会にキャンパスのなかの被爆遺構やモニュメントの存在をほかの学生にも知ってほしいと考えています。



今年は長崎原爆70周年。原爆を体験した長崎大学にとっても、記念すべき節目の年となりました。

被ばく体験と被ばく者救済活動の記憶を有する医学部では、当時の貴重な資料を復刻・整理して公開・展示するという記念事業が実施されました。圧巻は、故調来助名誉教授を中心に当時の医学生らが被ばく直後に行った、5,700名に及ぶ被災者への聞き取り調査をまとめた「原子爆弾災害調査票」でした。肉筆で細かく記載された資料の詳細さと膨大さに圧倒されるとともに、紙面からほとばしる調博士らの使命感や悲しみが胸に刺さり、心の震えを禁じることができませんでした。

11月には、本学核兵器廃絶研究センター(RECNA)のお世話で、パグウォッシュ会議世界大会が1週間にわたって伊王島と医学部を会場にして開催されました。原子爆弾をこの世に生んだ科学者の反省に基づき1957年から開催されてきた会議です。今回は下村脩、益川敏英両ノーベル賞学者など世界中から多くの科学者が参加し、核問題を中心に多岐



にわたる議論が交わされ、「長崎を最後の被爆地に」と訴える「長崎宣言」を世界に向けて発信しました。

あの日から70年が経過し、これまで、核兵器廃絶の象徴として、その存在をもって核兵器廃絶の潮流をリードしてきた被ばく者の皆さんの平均年齢は80歳を優に超えました。被ば

く者の体験や思いを共有し、継承し、“核なき世界”的実現を担ってくれる次世代人材を育成することも、被爆地のアカデミアの大きな役割です。いま、多くの長大学生が主体的にRECNAに集い、学び、議論し、発信し、そして世界の若者との交流を開始しています。心強い限りです。

世界の構造が大きく変容し、グローバル化が急速に進行する中、残念ながら戦争の危機は減るどころか増大し、今春のニューヨークでのNPT再検討会議の結果を見ても、未だ核兵器廃絶の実現への確たる道筋は見えません。

被ばく70周年。改めて、長崎大学の究極のミッションである核兵器廃絶と世界平和の実現、そして地球・人類の持続的発展に向けての思いを新たにしたいと思います。

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョホー]
Choho Vol.54

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.○から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

| | | | |
|-------------|-----------------------------|----|--|
| 学長室だより | 被爆地のアカデミアの役割 | 1 | 表紙のはなし |
| 特 集 | 被爆70年と長崎大学 | 2 | 毎年夏に原爆慰靈祭が行われる医学部記念講堂。今回モデルとして登場した西田千紗さん(医学部3年)は、昨年の長崎平和宣言起草委員会における委員を歴代最年少で経験しました。被爆70年を迎えた長崎。若い世代が『考える場』に加わることが継承の実践になると西田さんは考えています。 |
| サークルの星! | 医学部柔道部／能楽部／長崎Sip-S | 13 | |
| 研究最前線 | フィールドワークを旅人の視点に重ねてみる | 15 | |
| 卒業生に聞く | 武田 學さん | 19 | |
| グラバー図譜 | ゴンズイ | 21 | |
| Information | 入学試験情報、被爆70年学生自主企画展、学生ICT環境 | 22 | |
| | 長崎大学「通」クイズ & 編集後記 | 23 | |

これまでの70年と、
被爆の事実はどう向き合うか。

分。広島に続いて長崎に投下された原子弹は、長崎市北部にある浦上地区の上空で爆発し、約7万人が犠牲になりました。そのなかには、長崎医科大学の多くの学生や大学関係者が含まれていました。それから70年。これまでの長崎大学の歩みについて調査副学長に伺いました。

「長崎大学には、世界で唯一被爆した医科大学を前身とする医学部と薬学部、同じく被爆した長崎師範学校が前身の教育学部があります。志半ばで犠牲となつた多くの人々の思いがこの大学の礎となつています。



LITERATURE

調漸

Susumu Shirabe

被爆直後から始まった人体への影響調査。 被爆地にある大学として 放射線医療と核兵器廃絶の 情報収集で世界に貢献

実は、私の祖父にあたる講師の来助は、被爆当時の医科大学の第一外科教授として教鞭をとつていました。その時代としては珍しい鉄筋コンクリート造の大学病院の柱の影にて、被爆したものの一命をとりとめたことから、直後の長崎で医師として詳細な記録を残しています。昨年の夏に開催された『長崎医科大学原爆被災写真・資料展』でも、祖父の手による原爆被災復興日誌と調査票の原本が展示されました。

あの資料展は医学部基礎研究棟で行われ、大変な反響をよびました（P.5）。

「祖父は東大医学部時代に東大震災で被災した経験から

しらべすむ
長崎市生まれの被爆二世、
叔父2人が被爆死。専門は
神経内科で長崎大学教授。
長崎大学病院へき地病院
再生支援・教育機構機構長。
副学長として長崎大学核兵器
廃絶研究センター創設に
関わる。核兵器廃絶長崎連
絡協議会会長、長崎大学
副学長、学長特別補佐。

「災害時に記録を取り科学的データを残すことが研究者の使命だ」と考えて行動したようですね。今の医学生がこのスピリットを受け継いでくれたら素晴らしいですね」。

当時、医科大学は爆心地から500メートルの距離にあつたため壊滅状態だったと聞きました。

「医学部は木造校舎だったのではほぼ全滅です。そこで大学本部を被爆をまぬがれた地区に移し、患者は諫早や大村の海軍病院に転院させて診療や学生の講義などを行っていました。一時は存亡の危機もあつたそうですが、多くの関係者のご尽力で浦上の地に復興し、1949年、国立長崎大学医学部となりました。そして被爆後の混乱が収まるころになると、被爆死した学生の遺族が遺族年金をもらえるようになりました。私自身も子どもたちのころ、暑いさなかにグビロケ丘で慰霊祭を行うようになりました。その遺族会の記録が『忘れな草（P6）』です。また毎年、原爆の日にはグビロケ丘で慰霊祭を行うように口ヶ丘まで登って慰霊祭に参

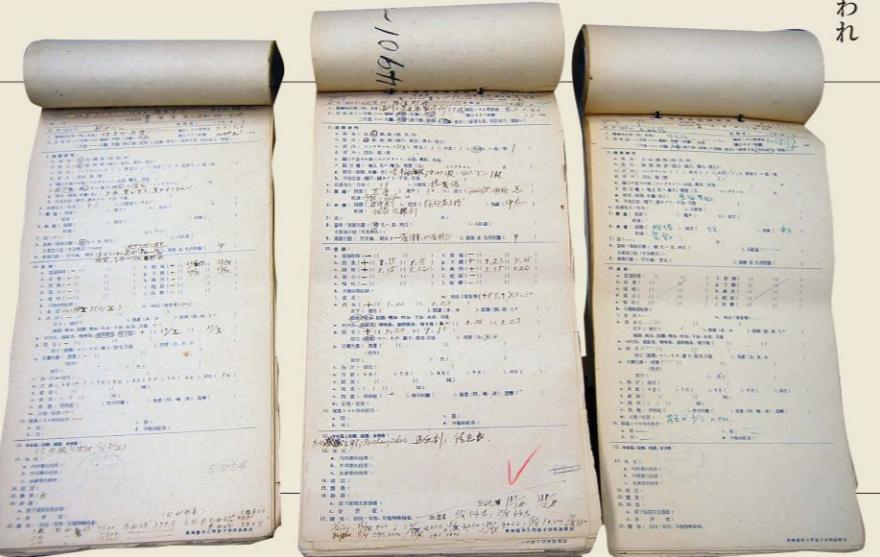
列した記憶があります」。坂本キヤンバスのすぐ裏手の山で、毎年春になると虞美人が咲く丘ですね。慰靈碑が建立されています(P5)。

一方、1950年代に行われていたビキニ環礁の核実験を背景に、放射能研究施設を被爆地に作ろうという機運が高まつたのだそうです。そこで1962年、長崎大学に創設されたのが原爆後障害医療研究施設（原研）です。その数年後には原爆医学資料センターを新設し、それまで行政や病院でバラバラに管理されていた被爆者情報をコンピュータによつて一元化したデータベースを構築しています。コンピュータが一般運用されて間もない当時、全国に先駆けてIBMのコンピュータを導入したことなどで注目を浴びたこともありましたそ�です。

原研では、原爆被爆者の後障害研究といった基礎研究に加え、放射線医療支援、分子疫学など研究範囲も次第に広がり、

原子爆弾災害調査票

被災者5778人を対象に、被爆状況や症状、爆心地からの距離などを聞き取り、まとめた調査表。被爆後2カ月目という早い時期に、先生を中心にして50名の医学生が調査したもので、放射線、熱線、爆風などの要素を解析したグラフや表を使い、放射能後障害の疫学データとして大いに役立ちました。



2013年に改組して原爆後障害医療研究所となっています。また、 Chernobyl や福島原発事故が起った際には、原研の研究者がいち早く現地入りし、専門知識を活かして貢献しています。放射線医療について、その存在は世界で認められています。

「放射線医療について」は原研で深く掘り下げて研究する体制ができました。しかし、平和や核廃絶の研究は手つかずでした。そこで 2012 年に立ち上げたのが「兵器廃絶研究センター (RECNA)」です。庄島の平和研究所とは異なり、あえて核兵器廃絶に特化し、理論のみならず政策研究など実践的な学問を追求するシンターです。

大学のなかに創るところには学びに繋がるところが大切ですね。

予想以上の活躍ぶりです。RECNAの影響により、自分の頭で考えて自分の足で歩く学生が目立ってきたという実感があります」。

今後、長崎大学としては被爆にどう向き合っていくのでしょうか。

「放射線医療と核兵器廃絶という2つの課題解決に向け、将来を担う人材を育成していきます。特に、多文化社会学部の大学院構想の中に、RECNAを中心に据えて核軍縮や核廃絶の研究ができるコースを作りたい。よく、国連などの国際機関で言われる『日本はお金は出すが人は出さない』。要するに出せる人材が育っていないのです。そこで、この分野でも国際的に活躍できる人材を育成する学際的な大学院を整えていくのが、次なる目標です」。

被爆の記憶を根底に持つ大學で、立場の違いを越えた対話のできる眞の国際人を育成する——それが70年の時を経て復興してきた被爆地にある大学としての長崎大学の大きな夢なのです。

※長崎大学核兵器廃絶研究センター RECNA(レケナ) / Nagasaki University Research Center for Nuclear Weapons Abolition

被爆70年にあたり、長崎大学ではいくつかの記念事業が行われています。原爆復興70周年記念事業実行委員長である下川功医学部長に話を伺いました。

「70年という節目は、被爆の実相を直接知る世代が自らの記憶底にあります。80年ではもう遅い。そこで、昨年から医学部医会と、調漸副学長や永山雄二原爆後障害医療研究所長をはじめとする大学関係者が集まり、企画立案を重ねてきました」。

まず、ゲビロケ丘全体の整備にとりかかったそうです。うつそうとした雑木林に手を入れ、慰靈碑周辺や残っていた防空壕などを整備し、慰靈碑の文字を改めて彩色し直しました。また、遺族の高齢化にも配慮し、献花台をキャンバスの中庭に新設しました。

「現存する貴重資料の修復にも着手しています。永井隆博士の原子爆弾救護報告書がかなり傷んでいたので修復することにし

学科と保健学科や薬学部の同窓会と、調漸副学長や永山雄二原爆後障害医療研究所長をはじめとする大学関係者が集まり、企画立案を重ねてきました」。

「70年とい

被爆70年記念事業を通して見えてきたこと



70年を機に、中庭に新設された献花台。そばには原爆の犠牲となった898名の名前が刻まれています。原爆犠牲学徒遺族会会長でもあった調来助先生がまとめたものを彫り起こしています。



毎年ゲビロケ丘で行っていた慰靈祭は、遺族の高齢化に伴い、現在では記念講堂で行われています。今年はこの慰靈祭の前後に資料展を訪れる方々多くみられました。

ストでお見せしましたが、これは現在も医学部のホームページでご覧いただけます。

展示準備の際、大村海軍病院の医大日誌を開いて見せようとしたまま広げたページに、土山秀夫元長崎大学長が医学生時代に記したサインがあるのを見つけたときは驚きましたね。足を運んでいただいた方の中には遺族の方も大勢おられて感慨深くご覧になっていました。印象的だったのは、現役の医学生が数人、調来助先生や当時の学生たちが聞き取りでまとめた調査票を前に『先輩方はすごいことをやったもんだな!』と驚きともに見入っていたことです。

引き続き下川医学部長のお話です。

「被爆直後の聞き取り調査は、おそらく残された者の執念のなせる偉業でしょう。当時、広島で新型爆弾が落ちたという情報は入っていましたから、同じような影響をおよぼすのかを生き残った人間としてしつかり解明しなければいけないという強い使命感が、調先生はもちろん医学生の先輩方にあつたのだと思います」。



被爆直後の長崎医科大学の全景。わずかに残るのは鉄筋コンクリート造の建物。木造の校舎は土台のみを残し跡形もなくなっています。(撮影者不詳 長崎原爆資料館蔵)



長崎医科大学原爆被災写真・資料展の様子。写真展示は7月14日~8月10日に行い、資料は前期と後期に入れ替えました。



全ページを複写して復刻した「忘れな草」。被爆直後の長崎の様子や遺族の悲しみがつづられています。全国の公立図書館で読むことができます。



永井隆博士の原子爆弾救護報告書(原本)。年月を経て傷んでいたものを修復しました。

「いろいろな形で被爆の記憶を形に残そうという記念事業は一区切りですが、被爆70年は2015年8月から2016年8月までです。折よく昨年末から映画『母と暮せば』が公開されました。これは原爆で亡くなつた長崎医科大学の学生を中心とした山田洋次監督の映画で、長崎大学医学部もロケや資料提供などで全面協力していました。記念事業は一つの形ですが、先人たちの思いやスピリットを次の世代が受け止め、将来につないでいく大きな流れができるていると確信しています」。

下川医学部長は、そう力強く語りました。

ました。また、調来助教授の原子爆弾災害査票が放射能影響研究所から移管されたことを受け、7月から8月にかけてそれらを「原爆被災写真・資料展」で公開し、多くの方々にご覧いただきました。ここでは、佐賀県医療センター好生館の、かつての看護師長のロッカーから発見された原爆直後の診察記録など、貴重な資料もお借りできたので展示了しました」。

当時の大先輩の執念を生で感じる現役医学生

この資料展は、実行委員の一員である原研の三根真理理子客員教授が展示から会場運営まで行いました。三根先生のお話です。「一般の方や学生が観やすいようにと医学部基礎研究棟のロビーで行つたところ、1200人以上の方々が来られました。写真や資料のほか、映像コナーもありました。被爆直後の医科大の貴重な映像資料もお借りできたので、写真とは違ったリアリティを感じることができました。ここでは、被爆60年のときの先生方の証言もダイジェ

そのほか、大きな事業の一つに遺族会の記録や手記をまとめた冊子『忘れな草』全7巻の復刻が挙げられるそうです。残り数冊だつたものを複写して復刻版を100部制作し、全国89の公立図書館に寄贈しました。また、毎年行われる慰靈祭での体験者の講話『追憶』を文字に起こしてまとめた冊子も作成しました。

「いろいろな形で被爆の記憶を形に残そうという記念事業は一区切りですが、被爆70年は2015年8月から2016年8月までです。折よく昨年末から映画『母と暮せば』が公開されました。これは原爆で亡くなつた長崎医科大学の学生を中心とした山田洋次監督の映画で、長崎大学医学部もロケや資料提供などで全面協力していました。記念事業は一つの形ですが、先人たちの思いやスピリットを次の世代が受け止め、将来につないでいく大きな流れができるていると確信しています」。

下川医学部長は、そう力強く語りました。

節目の年だからこそできることを！

奮闘する長人生

「被爆70年という大切な年に
長崎大学にいることを大切にしたい」
そう考えて積極的に活動する学生たちがいます。
その動きはキャンパスを超えて海外へ。
さらに書籍に映画にと多彩に展開！

NPT再検討会議 in ニューヨーク



山中智絵さん
(薬学部3年)

天野貴暢さん
(工学研究科2年)

河野早杜さん
(多文化社会学部2年)

報道では見えてこない
NPOのがんばり

昨年ニューヨークの国連本部で開かれた核不拡散条約(NPT)再検討会議に派遣された「ナガサキ・ユース代表団」。12名の長大学生のなかから山中智絵さん、天野貴暢さん、稲垣歩海さん、河野早杜さんにお話を聞きました。

山中／私は福岡出身ですが、長崎大学の学生として、原爆や戦争について人から尋ねられたときに答えるようになりました。NPTへの参加は2度目

今後の平和教育のあり方にについて問題提起しました。稲垣／会議を傍聴したのですが、正直に言って会議の意味がわからなくなりました。どの国も用意されたスピーチを読み上げるばかりで、解決の糸口が見えこない。一方でNGOのがんばりに希望を感じました。

天野／ある会議ではロシアの代表が、突然手書きのメモを取り出して、前日のアメリカの意見に反論していました。決まりきったやりとりばかりじゃない、歴史が動いている

参考にして作り上げられることが知つて『開かれているな』と感じました。重責でした

河野／僕は今回培つたつながりを活かして韓国の学生とのNGOを作つたり、新しい形の平和教育を模索したりして

です。ユースは現地でそれぞれやりたいことを見つけて活動するのが特徴です。

天野／今年の会議の参加者は日本からやってきた被爆者の方が多かったのが印象的でした。僕らが参加したデモも日本人ばかり。日本のメディアは日本人への取材が終わると引き上げてしまいます。その後に会議場では興味深い場面もあったのにもつたないと

思います。グローバルというわりに、日本人ばかりで固まっているような…。

稲垣／そのデモで私はアートプロジェクトを行いました。みなさんが書いた平和へのメッセージの紙を重ねて作った鳩を掲げて歩きました。「どうしてそれを作ったの?」とたくさんの方に話しかけられました。

河野／ユースとしては3つに分かれてプレゼンテーションを行いました。テーマは「若者の意識」「日本の政策」、僕らは「平和教育」に焦点をあて、

核問題と自分の専門分野の接点を探りたい

山中智絵さん
(薬学部3年)

天野貴暢さん
(工学研究科2年)

河野早杜さん
(多文化社会学部2年)



平和宣言委員会に 起草委員会に 最年少で参加

被爆70年と長崎大学
毎年平和祈念式典で長崎市長が世界に向けて発信する長崎平和宣言は、起草委員会で意見を参考にまとめられました。昨年の起草委員会に歴代最年少の委員を務めたのが、ナガサキ・ユース代表団の西田千紗さん（医学部3年）。

昨年のテーマが「継承」であり、若者の意見を取り込みたいたす。昨年の起草委員会が依頼しました。長崎では市民の委員の意見を

等身大の自分にもできる継承の実践

参考にして作り上げられることを知つて『開かれているな』と感じました。重責でした

河野／僕は今回培つたつながりを活かして韓国の学生とのNGOを作つたり、新しい形の平和教育を模索したりして

ともありました。

委員会では「身を削つて反核を訴えてきた被爆者の想いを、若者は繋ぐだけでなく中心となって活動しなくては。そのきっかけになるような文言が必要」と発言し、平和宣言が盛り込まれました。

宣言は、テレビの特別番組に出演中に聞いたのですが、感動して思わずうるうきました。でも涙を流すと痕が目立つのでコマーシャルの間に上を向いてこらえていたら、スタッフの方が素早くティッシュを下さってセーフでした（笑）。



平和祈念式典で平和宣言を読み上げる長崎市長。



パグウォッシュ世界大会にも長崎大学が全面協力

集まった要人と 交流するチャンスが学生にも

被爆70年と長崎大学
学が全面協力しています。パグ
ウォッシュ世界大会2015ナ
ガサキ運営委員会の委員長も
なさった調副学長のお話です。
「そもそもパグウォッシュ会
議は、政府間交渉が手詰まり
になつたときに、アカデミア

世界とつながり、考える
入口を発見せよ

昨年11月1日～5日、長崎
の地に世界中の科学者が集ま
りました。その数36か国
192名。このパグウォッ
シユ会議は、世界中の科学者
が個人の資格で参加し、対立を
越えた対話をを行う国際会議で、
1957年に始まり、今回の
「パグウォッシュ世界大会
2015ナガサキ」で61回を数
えます。テーマは「被爆70年—
核なき世界、戦争の廃絶、人間
性の回復をめざして」。医学
部記念講堂で行われた公開
セッションでは、会議の評議
員の一人でもある鈴木達治郎
RECCNAセンター長も登
壇。また、長崎医科大学出身で
ノーベル化学賞を受賞した下
村脩博士の特別講演もあり、
自身の被爆体験が化学者を目
指す基礎となつたことを中心
にお話しされました。



アメリカの事務次官との意見交換会には、多くの学生が参加しました。



浦上天主堂再現 プロジェクト

参加して
自分自身も
変わりました!



学生チーム
“deisy”

2つの市民イベントに参加し それぞれに気づいたこと

教員志望です。
子どもの絵の力に
圧倒されました

観た人が感激している
ことに逆に感激！

さまざまな記念事業や市民
イベントが行われた長崎。地
域のボランティアを伸立ちす
る学内の組織「やつてみゅー
でスク」を通じてイベントス
タッフとなつた長大生も多

かつたようです。その一つが
「浦上天主堂再現プロジェクト」。

天主堂の建物にCGを投
影させるプロジェクトで、東洋一と讃え

られた天主堂が原爆を乗り越
えて再建されていくまでの歴
史を表現しました。学生たち
は8月6日と8日に集まつた
7000人の観客の誘導や映
像の説明を行つたほか、モ

ニュメントを作つてメッセー
ジを書き込んでもらうなど、
独自の企画を運営。「せっかく
クションマッピングに興味が
あり参加したのですが、それ
を見上げて泣いている人がい
ることに感激してしまつて」
長崎に住んでいるのだからと
参加を決めました」「プロジェ
クトに興味があり、学生にも主体になつてほ
しかつた。新しい入口を作り
たかったので、やつてよかつ
たですね」とは、実行委員長
の深堀暢師さんの言葉です。

子どもたちの想いを
形にするお手伝い

また、完成して展示
されてからは外国人の方々に
説明する役割もありました。

子どもたちの絵はのびのびと
書いて、心から平和を願う
想いが国境を越えて伝わつて
いることを実感しました。平
和教育の原点を見た想いです

」。

ちなみにキッズゲルニカ

は世界50カ国で約350点が
制作されています。「近代戦
争最初の無差別殺戮の地『ゲ
ルニカ』と、最後の殺戮の地
『ナガサキ』は結ばれています。
この平和メッセージに参加した子どもたちや学生の心
にも鮮烈な記憶として残り、
平和な世界の意義や大きさを
考える一步になつたのではな
いでしょうか。次世代への継
承という意味でも主催者とし
て目的が一つ果たせたような
想いです」とは、主催した長
崎親善人形の会（瓊子の会）
の山下昭子さんのお話です。



キッズゲルニカ



本多泰大さん
(教育学部1年)

土山元学長の経験談も脚本に活かされる

原爆で亡くなった息子と残された母の物語『母と暮せば』が、昨年12月から全国で公開されています。息子浩二が長崎医科大学の学生である設定

ということもあり、長崎大学医学部が全面的に協力。資料集めやロケ地選定、エキストラの出演などに関わりました。

下川医学部長のお話です。「電車の中のシーンなど、長大関係者や学生がかなりエキス

トラとして参加したようですよ。僕も会議がなければロケ現場に駆けつけて出演したかったのだけど…(笑)。そのほか、教会の聖歌隊として医学部のコーラス部も加わりました」。

この映画には土山秀夫元学長も関わっておられたと聞きました。

「脚本も手掛けた山田洋次監督は、原爆のために長崎医科大学で900人近い人が亡くなつたことを聞き、「医科大学生の息子が主役の想定を練つたのだから…(笑)。その後、多くの資料や写真などを調査する過程のなかで、二宮和也のモデルとして、被爆当時の医学生たちで、被爆当時の医学生たち

が、いわば生き証人のようなもの。戦前の暮らしお話しされたそです。脚本には、先生の若いころいろいろなエピソードが盛り込まれたようです」。

原爆投下前の市井の人々の暮らしや被爆後の焦土から立ち上がりていく復興の様子など、これまであまり語られる

た土山元学長も取材しておられました。土山先生は、いわば生き証人のようなもの。戦前戦後の長崎の街の様子や人々の暮らしぶりについて監督にたくさんお話しされたそうです。脚本には、先生の若いころいろいろなエピソードが盛り込まれたようです」。

原爆投下前の市井の人々の暮らしや被爆後の焦土から立ち上がりていく復興の様子など、これまであまり語られる

きつかけは長崎の学生の会議だった

昨年4月に出版された「No Nukes ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ」は、「核なき世界」を希求する被爆者や著名人へのメッセージや写真を収めたフォトブックスです。この企画や編集に長崎大学の学生、広島や福島の大学生が大いに関わりました。そのなかの一人、文章を寄せた川崎有希さんのお話です。「2013年に行われた地球市民集会長崎のなかで、長崎の若者主体で核兵器をテーマにした模擬

会議を行いました。たまたまそれを見た講談社の編集の方が『この学生たちと戦後70年に平和を願う本を作りたい!』と企画を持ちかけたのが事の起りです。私たちは企画立案にも関わりました」。

ほかに宮田美波さんは語り部の末永浩さんを取材。新崎さくらさんは下平作江さんの被爆体験を編集しました。本は長崎出身の歌手美輪明宏さんや女優吉永小百合さんのメッセージも並びます。「この本をきっかけに、核のことについて考えてみたいですね」と川崎さん。

メッセージ&フォトブック
No Nukes ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ
講談社 1,500円(税別)

美しい本です、手にとって読んでください!



左から／新崎さくらさん(教育学部3年)、川崎有希さん(教育学部3年)、宮田美波さん(医学部保健学科4年)

ことのなかつた「長崎」を舞台に展開する物語です。

被爆70年学生自主企画

1月に良順会館で開催

この映画の公開にあわせ、

学生主体の企画展が1月4日

(月)～15日(金)に坂本キャン

パスの良順会館で開催されま

す。学生実行委員会の内田直

子さん(医学部2年)によれ

ば、もともと何か被爆70年企

画をしたいと考えていたところに、映画製作の話を聞いて自

主企画に結びつけたのだそう

です。加わった人の動機は

「節目の年に何かやりたい

から」「映画に興味がある」

「吉永さん、二宮さんが好

き!」までさまざま。どんな

入口からでもこの地で学ぶこ

との意義や平和について考え

るきっかけになれば、とも。



実行委員会の学生たち。山田監督への聞き取りから深いテーマを探しながら企画に生かしています。

大ヒット上映中!

母と暮せば
haha to kureseba



戦後70年の節目に公開される映画「母と暮せば」長崎大学も全面協力



山田洋次監督が、長崎を舞台に描く、やさしくて悲しい、感動の物語

「母さんはあきらめが悪いから、なかなか出てこられなかったんだよ」

1948年8月9日、長崎。助産婦をして暮らす伸子(吉永小百合)の前に、3年前に原爆で亡くしたはずの息子・浩二(二宮和也)がひょっこり現れる。伸子は呆然とした。その日、浩二の墓の前で「あの子は一瞬の間に消えてしまったの。もうあきらめるわ」と言ったばかりだったのだ。

—戦後70年。山田洋次監督が、作家・井上ひさしに捧げて長崎を舞台に描く『母と暮せば』がついに完成しました。「戯曲『父と暮せば』と対になる作品を『母と暮せば』という題で長崎で作りたい」という井上さんの遺志を監督が引き継ぎ、「生涯で一番大事な作品をつくろう」と製作に取り組みました。

吉永小百合
二宮和也
黒木華
浅野忠信
加藤健一
監督:山田洋次
音楽:坂本龍一
配給:松竹株式会社
©2015「母と暮せば」製作委員会

柔道を通して海外でも
友人ができますよ!

サークルの星!

キラッと光るサークルや
活躍する学生をクローズアップ!



九州大会で優勝した
池谷千章さんと坂山朋子さん。

医学部柔道部

全九州大会で男女個人優勝 坂山朋子さんは全国大会で準優勝

医学部は、特に体育会系のサークルが活発です。医療現場は体力勝負だからでしょうか。「それもありますが、体育会系はタテのつながりが強いので、先輩に試験勉強を見てもらえますし、卒業後に社会に出てからもお付き合いが続きます」と柔道部主将の佐藤和也さん。医学部の柔道部は6年前に復活し、昨年の九州山口医科学生柔道大会で池谷千章さんと坂山朋子さんが個人男女とも優勝。坂山さんは医科学生全日本大会でも個人準優勝に輝きました。

勉強との両立はどうなのでしょうか?「かえって気分転換になります。部活があるからそれまでは勉強に集中しよう、とか」と坂山さん。昨年はオラン

ダ・ライデン大学に2ヵ月間留学し、オランダでも柔道三昧でした。「オランダは柔道王国なんです。スポーツセンターで稽古したので、医学生だけでなく一般の方々とも柔道を通して仲良くなれました」。

普段の稽古は週3日ほど。特に指導者はおらず、自分たちで技を研究し合うことが多いですが、ケガをしたときは「それってこの前授業でならったアレじゃない?」という医学部生らしいやりとりも。



現在、部員男女7名と少数精鋭ながら、チームワーク良し! 部員募集中。



能を舞うときは
精神が研ぎ澄まして
不思議な感覚に…



能楽部

毎年1月に行われる発表会 諏訪神社のくんちの直会にも参加

九州では九州大学と長崎大学だけにあるという能楽部。福岡在住の観世流能楽師、森本哲郎氏に週1回稽古をつけてもらっています。そもそも17年前に能楽部が誕生したのも、森本さんの

「もっと若い人たちに『能』の良さを知ってもらいたい」という想いがきっかけでした。部長の津山昌子さんは話します。「最初、舞台を見たときは、本当にこれは大学生がやっているの? というのが率

直な感想でした。でもサークルに入ってみると、次第に能の奥深さに魅かれていきました。長い歴史に培われた独特の思想や物語のせいか、舞うときは精神が研ぎ澄まされて不思議な感覚になります。囃子と舞いの呼吸を合わせるのも、ジャズセッションのような面白さがあります」。

平成26年に157年ぶりに復活した長崎くんちの直会神事の一つ、神事能奉納に

も参加しています。また、1月23日には4年生の卒業公演として「自演会」を予定。演目は「舍利」で、午後2時からチトセピアホールで開催(入場無料)。

面や、きらびやかな装束を着けての能舞台を間近で觀ることができます。

昨年の自演会の様子。

部長の津山昌子さん。今年の自演会ではなぎなたを使う「船弁慶」を舞うのだそうです。

長崎Sip-S

東日本大震災学生支援団体
(Student instituting project-Supports)

被災地支援を毎年継続して5年め、 第一目的は「継続」

東日本大震災からまもなく5年。2011年3月11日の翌日に誕生した長崎Sip-Sは、長崎の大学生たちで立ち上げたプロジェクトです。毎年、学生主体で「スタディーボランティア」バスを出し、被災地での支援活動や交流事業を行っています。昨年も、9月に長大生28名が岩手、宮城、福島に

行ってきました。リーダーの森恭佑さんのお話です。「毎年新入生に“被災地に行って自分の目で確かめてみよう”と呼びかけて参加者を募ります。当初は他の大学も参加していましたが、今は長大だけですね。でも5年間継続することで現地の人たちとのネットワークができました。これまでの宮城県石巻に加え、岩手や福島にも足を運んで交流したいという声もあり、二手に分かれて3県を訪問できました」。5年目ともなると長崎か



陸前高田では震災遺構めぐりや漁業体験、福島では交流や農業体験とプログラムもいろいろ。

求められているものは何か、
声を聴きながら活動します



毎年恒例の石巻では、仮設団地の被災者の方々に足湯と手もみマッサージでリラックスしてもらう活動や除草作業をボランティアで行いました。

ら動くボランティアの数はそう多くはありません。しかし、Sip-Sが掲げる第一目的は「継続」です。「被災当初は緊急援助的な活動を中心でしたが、今は復興の度合いに合わせた農業や漁業のお手伝い、生活目線のサービス、被災体験を聴き交流するプ

ログラムを組んでいます。劇的に変わっているところもあれば、1年前と全く変わらないところもあり、被災者の方の話を聞くと考えさせられることも多いですね」とスタッフの牧島果鈴さん。学生のフトワケを生かしながら、今後も活動を続けていくそうです。



長崎大学で行われている研究の一端を、研究者が自らの言葉で語るコーナー。今後につながる研究の“芽”をご紹介します。

世界各国の村を訪ね 村人と共に考える

人が人を支配したり、人が自然を支配したりすることを当たり前と考えている今の社会は、早晚、行き詰まるでしょう。現代を生きるなかで私たちはさまざまな矛盾を感じています。しかしその一方で、この人生を生きる価値のあるものにするためには、やはり私たち自身の努力と、そのなかで蓄えてきた能力の解放が必要です。社会学を専攻し研究を志すようになった当初、阪神淡路大震災の震災復興調査で胸に刻み込んだこの思いは、今日、国内外のさまざまな地域でフィールドワークをおこなう際にも、私の学問的な好奇心の原動力となっています。生きとし生けるものすべてが“居場所”のある社会になるよう、新しい価値の創造に携わりたい。そのために求められているものは何だろうかと自問を続けています。

世界各地の村を訪れましたが、フィールドワーカーというよりはむしろ旅人としてというのが実感です。“われわれ”と“よそもの”的境界域をうろ覚えながら、お年寄りや子どもの世話、今年の作業でいるものは何だろうかと自問を続けています。



■部分が実際に私がフィールド調査を実施した地域。国土上の辺境は、むしろ地政学的な重要性から、人、モノ、情報の複雑な移動を生み出しています。越境・境界侵犯・異種混淆などが起こり、価値の創造において最もダイナミックな現場です。

大学の研究最前線 6
Research Frontiers

大学の研究最前線 6
Research Frontiers

物の収穫具合、若者たちの進路や結婚、亡くなつた祖先のお墓のことなど、あれこれと首を突っ込んで聞いています。

フィールドワークは学問的な方法ですが、むしろ旅としての着眼からこそ新たな意味が見出せます。民俗学の柳田国男や宮本常一、乾武俊、人類学のC・ギアーツやJ・クリフォードなどは、「村を考える」ではなく「村で考える」ことの大切さを教えています。研究者の世界観によってフィールドで見聞した出来事を整序づけ描写するのではなく、むしろ旅人は立ち寄つてそこに居る人たちと一緒に悩み考える。一方、そこに居住する人々は立ち寄つてそこに居る人たちと一緒に悩み考える。

一方、そこに居住する人々は自分たちの生活や文化を解釈し旅人に翻訳することを通して、彼ら彼女たち自身、世代間、世代内で転地を繰り返しながらさまざまな見方、感じ方を培つてきた旅人であることに気づきます。本質的に語られる起源(Route)よりも、今日あるいは未来へと向かうなかで変化してきたこと、すなわち起源よりも経過(Routes)のほうがよっぽど自分たちの生活や文化を語る語り方としてはふさわしいのです。そこには、“われわれ”と“よそもの”を画然と分ける境界が本質的に存在するのではなく、むしろそういった境界がいつどこでどのような方法で引かれたのかを問い合わせる自省のチャンスが横たわっています。

私は中国で回族、チベット族、土族、モンゴル族、ナシ族、モソ族など「少数民族」の村々をいくつか訪ねました。国家が民族として識別した五十六民族のうち

旅人の視点に重ねてみる フィールドワークを

少数民族人口は約一億人です。民族区域自治が実施されている地域は国土の六十九%、しかも総国境線一・一万kmのうち一・九万kmを占めます。国防上の要衝であり豊富な天然資源もあります。国土の辺境にありながら国防と開発のために中央の権力と資本が集中的に投下され、中心と辺境をめぐる時間的圧縮と輻輳が歴史的に繰り返されてきました。ここで

の旅人は、そこに未開の地を発見するではなく、むしろ権力と資本の翻弄に抗う人びとの姿、境界侵犯と異種混淆を常としながら、ときには逆説的に共生の作法を編み出す地平などを見出すのです。

少数民族、回族にみられる共生の作法

一例を挙げましょう。ミャンマー国境沿い、雲南省保山市の回族です。その祖先は、唐や元の時代、アラビアやペルシ

長崎大学多文化社会学部教授。兵庫県西宮市生まれ。大阪大学人間科学部卒業。神戸大学大学院文教研究科修了。博士(学術)(2001年)。兵庫教育大学准教授を経て、2001年より現職。専門は社会学。移動の観点からアジアにおける家族、村落、市民社会、民族を研究。



首藤明和 教授

みんなに“居場所”が開かれたグローバル社会を求めて

Text by Toshikazu Shuto



雲南省保山市の村のモスクにて

雲南の漢族とムスリムは土地や鉱山の所有権、地域の支配権をめぐつて紛争が絶えませんでした。雲南のムスリム人口は十分の一に激減したといいます。また新中国建国後も反右派闘争、大躍進、文化大革命のなかで回族の信仰や習慣は激しく揺さぶられました。幾重にも積み重ねられた凄惨な歴史を、雲南の回族は特定の人物や地域、出来事と結びつけて記憶しています。したがって今日、保山の回族による共生の作法とは、ネガティブな記憶や歴史から反転してポジティブな未来(歴史)を紡ぎ出そうとする逆説的な営みとして理解できるのです。その拠り所は旅人としての馬注の思想です。

写真の子どもたちは、保山の村のモスクでアラビア語を学び、将来、エジプトやサウジアラビア、マレーシアなどイスラーム圏の大学に留学することを夢見て、大学に通う回族の大学生がボランティアで村のモスクに泊まり込み、子どもたちにアラビア語を教えたりします。旅をライフの常態と見る視点を通じて、現在のグローバル世界をみんなに開かれて、居場所の開かれた社会へと開いていく条件を探求する……、私自身まだまだ旅が続きますし、長崎大学で学ぶ学生たちはさらに豊かな旅を続けてくれることでしょう。旅は道連れ世は情け、時に立ち止まり悩みつつも、みんなで旅を続けたいきたいものです。

出島復元の一翼を担う 若手技術者

文化財保存計画協会
技術員

武田 学



たけだまなぶ
岡山県倉敷市出身。長崎大学
環境科学部第一期生として
入学。平成15年に卒業後、翌
月から大工・池上算規氏による
渡り腰工法、竹小舞下地の
土壁による家づくりを学ぶ。二
級建築士免許取得。平成23
年に大工として独立し「武田
李工務店」を立ち上げる。平
成26年、文化財保存計画協会
では技術員として史跡「和
蘭商館跡」第3期建造物復元
主体工事の設計管理に従事。

百年後のために植える杉
日本古来の文化にふれる

今年注目されることの一つに、
出島の第Ⅲ期復元の完成が挙げら
れます。現在、筆者蘭人部屋や銅
蔵など六つの建物の復元が進んで
おり、その現場で文化財保存計画
協会の技術員として働いているの
が、長崎大学O.B.、武田学さんです。

「私の役割は、発注元である行政
と現場との橋渡しをしながら、設
計図通りに工事が進捗するように
監理することです。また、建物を
実際に建てていく過程のなかで、
設計図のスケールでは表現できな
い部分に問題が生じた場合は、現
場の技術者と協議しながら解決し
ていきます」。

出島ならではの苦労もあります。
復元工事は単に外観を復元すれば
いいというものではありません。
伝統的な接合で成立する構造体と、
竹、繩、土で構成される土壁など、
江戸時代の工法も再現しつつ、公
共施設としての構造補強を行って
耐震性も確保するのです。

「現代的な構造力学の考え方と、
復元建物の本質を損なわない考え方
とを調整するのも大事な仕事の
一つです。現場では釘の間隔や下
地の入れ方、穴を開ける位置など、
細かい指示が必要になってきます。
そのほか、屋根の軒をささえる部
材である「持ち送り」のデザイン
にも関わりました。長崎や平戸に
残る同時期の日本家屋を参考にし
つつ、建物の役割や時代考証を確
認し、専門家の意見を仰ぎながら

のプロセスです。棟梁の元では現
場で技術を磨く作業でしたが、
人々の知恵の集積のなかで作り上
げる文化財工事に別の魅力を感じ
ています」。

ところで、武田さん、工学部出
身かと思いきや、実は環境科学部
の一期生。卒業後、大工の棟梁の
元で八年間修業の末に独立したと
いう経歴の持ち主です。

「高校のころから環境問題に関心
があり、長崎大学の資料で新しく
環境科学部が出来たことを知り、
文理融合という理念にも魅かれて
入りました」。理系で入り、途中
から文系へ。そして環境倫理や哲
学の世界へ導かれていきます。

「倫理学が専門の吉田雅章先生に
師事しました。人が生きていくな
ど自然と関わっていく形態こそ
が文化。里山文化に象徴されるよ
うな、永く循環的な自然の利用を
行ってきた日本の文化をなおざり
にしては、環境問題の解決は成り
立たないと学びました。その後、
一年間休学して熊野で農業修業を
したんですね。築百年の民家で暮
らし、裏山には樹齢百年の太い杉
がありました。その木が百年後の
民家の改修工事に使うために植え
られたことを知り、日本古来の考
え方にふれて感動しました。先生
が言っていたのはこのことかと」。

そのころ、友人を訪ねてカンボ
ジアに行った武田さん。現地の
人々が田んぼや畑を耕し、自力で
家を建てるのを見て「先進国から
何もできない若造がやって来て、
何が途上国支援だ?」と深く恥じ、
自分が誇れる技術を身につけなけ
ど感じて飛び込みました」。

「その後、築明治四年の長崎市内
の土蔵の修復を依頼されました。
あつて、あえて難しい素材を手元
に入りを許されます。工場で加工さ
れた材木を使うのが主流の業界に
あって、あえて難しい素材を手元
で切り込む「手刻みによる工法」
の第一人者です。ここで八年間修
業し、二〇一一年に独立しました。

「その後、築明治四年の長崎市内
の土蔵の修復を依頼されました。
がわからず、多くの業者さんは手
を出しません。土壁の厚みが三十
センチ近くもあり乾燥にも時間が
かかります。結局、一年以上携わ
りましたが、非常に勉強になりました

れば国際貢献もできないと自覚。
そのためには大工の修業が必要だ
と一念発起。大学卒業後、伝統的
な工法や竹小舞の土壁の家づくり
を得意とする池上算規さんに弟子
入りを許されます。工場で加工さ
れた材木を使うのが主流の業界に
あって、あえて難しい素材を手元
で切り込む「手刻みによる工法」
の第一人者です。ここで八年間修
業し、二〇一一年に独立しました。

「その後、築明治四年の長崎市内
の土蔵の修復を依頼されました。
がわからず、多くの業者さんは手
を出しません。土壁の厚みが三十
センチ近くもあり乾燥にも時間が
かかります。結局、一年以上携わ
りましたが、非常に勉強になりました



復元工事の一般公開は 後継者育成の目的も

今回の第Ⅲ期復元計画では頻
に見学会を行い、復元過程を市民
に公開しています。これは、第Ⅳ
期を見越した次世代の技術者育成
を視野に入れているといいます。

「今、この世界の技術者の多くは
六十代や七十代。ここ十年で失わ
れてしまふ技術もあるかもしれません
。実際、墨付けや手刻みにこ
のくらいのこだわりは必然でしょ
う。これが成功例とは言いません
が、大学時代は人生のなかでも特
別な出会いのある贊沢な時間です。
大学の外にも飛び出して大学生で
あることを客観視する時間を持つ
方がいい。すると、勉強の意味
がわかつてきます」。

環境科学を切り口に、日本古來
の暮らし方の探求から建築界に
入った武田さん。世界に開かれた
世界も広げようとしています。

海のナマズ

『グラバー図譜』に登場する魚を山口敦子教授に解説していただく人気コーナー、今回紹介するのはゴンズイです。

「ナマズの仲間では珍しく、海に棲む魚です。体長は最大十八センチメートル程度、口ひげを備え、第二背鰭と臀鰭は、ともに尾鰭と癒合しております、その体形はウナギに似ていますから英名を*Barbel eel*（口ひげのあるウナギ）といいます。第一背鰭の前に一本、両側の胸鰭の付け根に二本、合計三本の毒棘がありますのでご注意ください。いつたん刺されば簡単には抜けない構造です」。

なんと、先生は体験済みなんだそうですね。

「棘だけではなく体表の粘液にも毒があり、併せて傷口から入ってくるため相当な痛みです！ 日本にはゴンズイとミナミゴンズイの二種が生息しており、最近まで同種と考えられていたのですが、二〇〇八年に別種であることが報告されました。新種と判明したゴンズイの方には新たに*Plotosus japonicus*という学名がつけられました。ゴンズイは房総半島または能登半島から九州沿岸の岩礁域でみられます、詳しい分布はよくわかつていません。ミナミゴンズイ *P. lineatus* の方は、琉球列島から西部太平洋にかけての暖かい海域に広くみられます」。

身もさることながら 出汁は絶品

「ゴンズイは美味しい魚でもあります。産卵期は夏、直径三ミリメートル程度の卵を産みます。おすすめは脂の乗る冬。背鰭と胸鰭の毒棘を含めて頭部を包丁で一気に取り去れば調理は簡単です。味噌汁に入れると、柔らかい白身と皮の部分のとろみに加え、味わい深い出汁も同時に楽しむことができます。でも一番美味しいのは、実は頭の部分です。長崎市鍛冶屋町で天ぷら割烹を経営している野田武一さんと、美味しい魚談義をしていましたこと。旬のゴンズイを頭ごと味わう、ゴンズイぞうめん“が最高なのだと教えてくれました。長崎には、期間限定でゴンズイ漁をする漁師さんがいる

ことから英名を*Barbel eel*（口ひげのあるウナギ）といいます。第一背鰭の前に一本、両側の胸鰭の付け根に二本、合計三本の毒棘がありますのでご注意ください。いつたん刺されば簡単には抜けない構造です」。



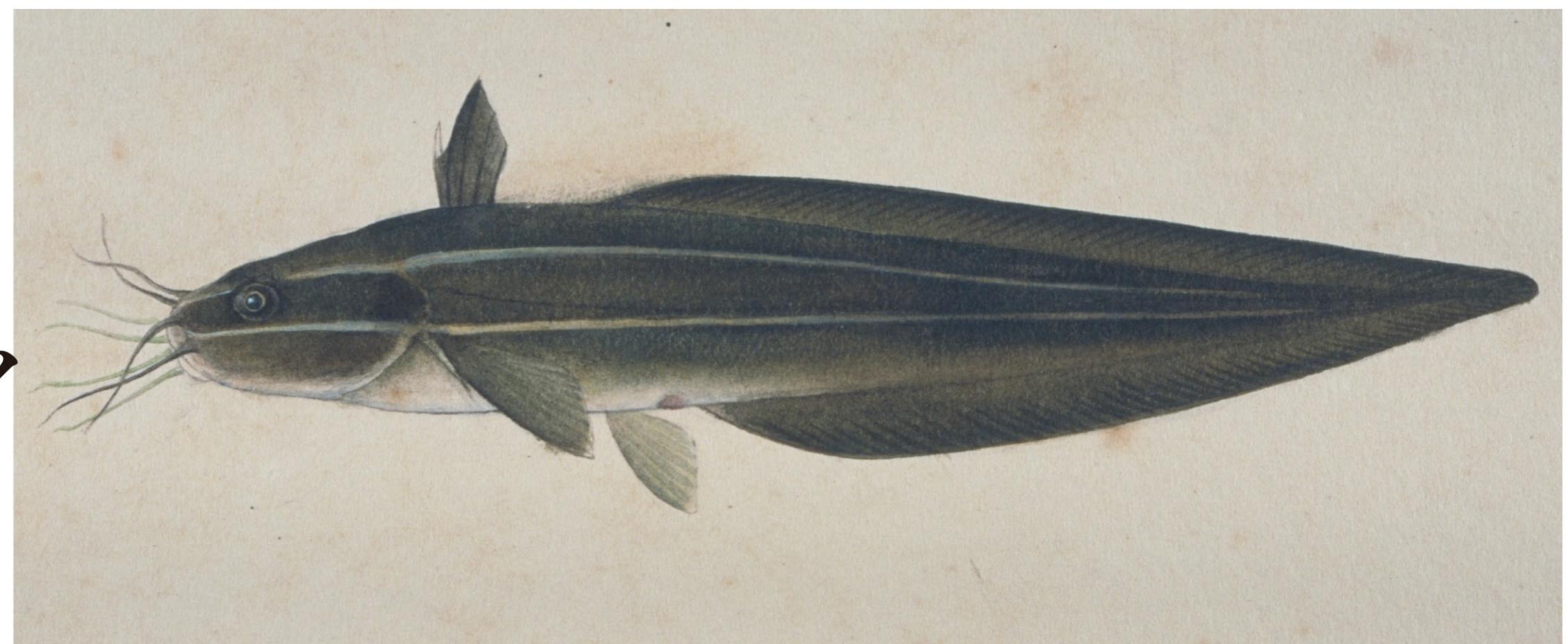
解説 山口敦子
長崎大学水産・環境科学
総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko
東京大学大学院農学生命科学
研究科博士課程修了。
2000年から長崎大学。専門
はエイやサメなど魚類学と水産
資源学の研究。主な著書に
『千渕の海に生きる魚たち
有明海の豊かさと危機』(東海
大学出版)など。

Glover Atlas
ゴンズイ

Plotosus japonicus
画家 萩原魚仙

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜
Fishes of Southern & Western Japan



長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

グラバー図譜に描かれたゴンズイはどちらの種だったのでしょう？

「精密に描かれた図譜をもとに尾鰭と臀鰭の位置関係などから同定してみると、ゴンズイのようでもよく似ているので、泳いでいる魚を区別するのは不可能に近いでしょうね。

ゴンズイは、毒棘を使って発音します。ゴンズイが属するナマズ目の魚には、"ウェーバー器官(鰓と内耳が四つの小骨片で繋がっている)"があり、鰓の振動(音)が内耳に伝わりやすく優れた聴覚を持ちます。コイの仲間も同じです。トントンと手をたたくとコイが寄ってきますよね。耳が良いのです。これらの魚は骨鰓類とよばれています。フェロモンを持つことでも知られています。海辺で真っ黒な団子のように塊になつて泳ぐ"ゴンズイ玉"を見たことがあるでしょうか。ゴンズイは幼魚期には集団で行動しますが、それはフェロモンで制御され、集団でたまることで外敵から襲われるのを防いでいます。ゴンズイは嗅覚も優れていて、血縁者の群れを匂いで嗅ぎ分けているといわれます。そのため、実験的に二つのゴンズイ玉を混ぜてもすぐに元の玉に分かれれるのだと。味覚も優れています。口鰓に加え、体表にまで味蕾が分布するので、身体全体で味見ができます」。

のだそうです。冬のある日、野田さんからゴンズイが手に入つたという連絡が。丁寧に下処理され、甘辛く柔らかくなるまで煮こまれた大きなゴンズイはそうめんの上で圧倒的な存在感を示しています。身離れが良く、複雑な頭骨もなんのその、頭から口に入れてチュルッと吸えばトロッとした甘みのある身だけをたやすく食べられます。ゴンズイのみでとられたお出汁も、深くしつかりとした味がそうめんにも染み込んでうなるほど美味しい！ こうして地元の旬の魚を獲る漁師さんがいて、それを料理する方がいるのは素晴らしいことです」。

ゴンズイぞうめん：長崎にはまだ知られざる美味があるのでですね。

長崎大学広報誌

[チヨーホー]

Choho

Vol.54

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
長崎に原子爆弾が投下されて70年
目の昨年8月から本年8月までの1年間
が、被爆70年の年にあたります。被爆し
た大学として、長崎大学がこの70年間
に取り組んできしたこと、そしてこれから将
来にわたって取り組んでいくべきことにつ
いて、特集として取りまとめました。学生の活動を中心とした被爆70年記念事業を紹介しつつ、重要なテーマである被爆について、今後、教育・研究においてどのような展開がなされていくのかを限られた誌面の中で、調副学長に語っていただきました。

「大学の研究最前線」、「グラバー図譜」などのレギュラー企画は、これからは毎回掲載するよう、スタッフ一同、気持ちをより一層引き締めて取り組んでいきたいと思ひます。次号以降もご期待ください。

(原田哲夫)

【編集・発行】 Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副本部長
工学研究科 教授

副編集長

池田 幸恵 多文化社会学部 准教授

編集委員

堀内 伊吹 副学長、経済学部 教授
山口 純哉 経済学部 准教授
相樂 隆正 工学研究科 教授
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授
小林 信之 医薬学総合研究科 教授
佐々木 均 病院 教授
西田 憲司 やってみゅーでスクマネージャー
深尾 典男 副学長、広報戦略本部副本部長 教授
高藏 祐亮 広報戦略本部 主任
井上 泉 広報戦略本部 主任
尾中 紀夫 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹
企画編集アドバイザー 浅野 真

TEL.095-819-2007

FAX.095-819-2156

〈E-mail〉

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日]2016年1月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 通 クイズ

長崎大学に関する、知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。
さあ、あなたはどれが本当だと思いますか?

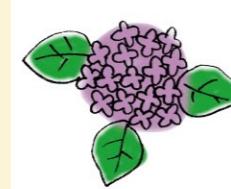
今回の特集でも登場している坂本キャンパスのゲビロケ丘。

この慰靈塔の周辺は、毎年季節になると、

ある花がいっせいに咲いて彩を添えます。それは何の花でしょう。

ヒント：花の別名が地名の由来です。

あじさい



1

ひまわり



2

ひなげし



3

解答は挿み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケート内容もしっかり記入ください)。正解者のなかから抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の
答え

Q グラバー園内に、経済学部の前身、長崎高等商業学校の建物が移築されています。それは何でしよう?

A ② 表門衛所

この洋風建築は、明治38年(1905)創立の長崎高等商業学校の表門そばに建てられた門衛所です。小さいながらも木造の寄棟造りで屋根は鉄板葺。今もある拱橋を渡って右側にありました。市内に点在していた洋館がグラバー園に移築されていくなかで、昭和51年(1976)移築復元されたものです。グラバー園の噴水の近くの一画にあり、長崎港も一望できます。



今回のプレゼント



真珠養殖に使われるアコヤ貝の貝柱を素材にした、スペインの郷土料理アヒージョが今回のプレゼント。アコヤ貝の貝柱は、冬場の真珠を収穫する時にしか手に入らないもので、その貴重な素材を使ったちょっと贅沢でおしゃれな逸品です。第46回長崎県特産品新作展水産加工部門で最優秀賞を受賞しました。今回は正解者のなかから5名の方にこの『アコヤ貝のアヒージョ』をプレゼント。

新鮮な貝柱は贅沢な食感。そのままでも、またパスタの素材としてもいただけます。風味豊かなオイルはパンにつけて楽しめます。2本セット3,000円(税込)

提供／金子真珠養殖 TEL.095-828-8693

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/

*「長崎よかもんショップ・四谷」好評営業中(長崎県東京産業支援センター1F)

Information

入学試験情報

大学入試センター試験

試験日

1月16日(土)、17日(日)

長崎大学一般入試

| 区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格者発表 |
|--------|------------------|-----------|----------|
| 前期日程試験 | 1月25日(月)～2月3日(水) | 2月25日(木)※ | 3月8日(火) |
| 後期日程試験 | | 3月12日(土) | 3月21日(月) |

※教育学部中学校教育コース技術専攻及び医学部医学科は26日(金)も実施

詳しくはWebで → http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/nyu_main.html

卒業式

日時 3月25日(金)

場所 長崎ブリックホール



入学式

日時 4月4日(月)

場所 長崎ブリックホール



被爆70年学生自主企画

映画『母と暮せば』公開記念企画展

昨年12月から全国で公開中の映画『母と暮せば』は、原爆で亡くなった長崎医科大学生だった息子と残された母親のやさしくて、悲しい感動の物語です。長崎大学も制作に全面協力しました。そこで学生で組織する長崎被爆70年企画学生実行委員会の主催で、映画の世界観をモチーフにしながら平和について考える企画展を行います。会場の良順会館全体を使いながら映画のスチール写真、撮影で使用した小物の展示のほか、映画の世界をさらに深く掘り下げる内容を予定しています(関連記事P12)。



日時／1月4日(月)～15日(金)平日10時～19時(土日祝日9時～)、1月12日のみ19時～21時

場所／長崎大学坂本キャンパス内 良順会館 入場無料

問い合わせ／長崎被爆70年企画学生実行委員会(代表・内田) TEL.070-5414-9605 メール／70peace2015@gmail.com

今年3月 学生ICT環境が進化!

この春、長崎大学の学生ICT環境にマイクロソフト包括ライセンスとOffice 365が導入されます。これにより、すべての学生がMicrosoft Officeを無料で利用できるようになります。また、マイクロソフト包括ライセンスにより、学生がパソコンを購入する際の負担が軽減されます。Office 365はマイクロソフトのクラウドサービスで、本学ではOffice 365を利用した大容量のオンラインストレージサービス(1TB/人)を新たに開始します。Office 365は企業での導入も進んでおり、在学中にOffice 365に慣れておけば企業にとって即戦力となるICTスキルを身につけることができます。

申込方法や最新情報など、詳しくは長崎大学のホームページをご覧ください。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>